

R4年度 モコ末広保育園 園評価

保護者アンケートより

乳児組、幼児組それぞれの歳児の中で、色々できることが増え成長した部分を保護者の方と共有できた事を嬉しく感じた。今年度も引き続き子どもの「やりたい」気持ちを大切に、夢中になっている事、チャレンジしている事等をドキュメンテーションや、玄関掲示、Twitter等で保護者の方と共有していきたい。

保育園で過ごしている日々の遊びを子どもとの会話に繋げてもらい、保育園と保護者の方と遊びや学びを深めていき、その中で信頼関係も更に深めていきたいと思う。

また異年齢の関わりが増える活動を取り入れたことで、小さい子ども達は大きい子ども達に憧れの気持ちを持ち、大きい子ども達は小さい子ども達に優しく接する気持ちを持つ事が自然にできたと感じる。来年度も引き続き日常の遊びや活動の中で自然な形で異年齢交流を続けていきたい。

毎年の課題でもある安全対策については色々な対策を行っているが、門の鍵については「子どもは触らない」約束を守り、楽しい保育園生活が送れるように保護者の方と共有していきたいと思う。

職員評価より

・「保育理念」「園目標」「めざす子ども像」「全体的な計画」が保育の土台となり、モコ末広保育園の指標となる。子どもの姿を捉え、興味や夢中になっている事、頑張っている事を共に共感し認め受け止めていく中であそびを広げていく事に重きを置いた。毎月ドキュメンテーションを掲示する事で保育を振り返る事もできたと感じるが月1回クラスMTで子どもの姿や保育環境を振り返る時間の確保の難しさや子ども達の姿からの環境設定や気付きを保育士が意識していく事が課題であると感じた。

伝承遊び（わらべうた）や泥んこ遊びは保育士が意識して取り入れていく事で子ども達の中で自然と遊びが広がる事が出来るようになってきたと感じる。毎年継続していく事の大切さを改めて実感した。

保育の質の向上の為に研修や職員同士の語り合いを大切にしていきたいが、月1回の全体会議では、職員全体で周知する連絡事項等の内容が大半の時間を占める為、園内研修の時間の確保をしていくことは今後の課題である。

・保護者への情報発信では各クラス「毎月のおたより」「毎月の玄関掲示のドキュメンテーション」「週1回のTwitter」を利用して子どもの姿を発信した。

特に玄関掲示のドキュメンテーションでは、全クラスの様子が見られることで、モコ末広保育園の保育を「見える化」し子どもの「遊び」「発見」「興味」「気付き」などを伝えることで、子どもの成長を家庭と共有できるよう努めた。子どもの姿は結果だけに着目しがちだが、できるまでの過程の姿や子ども達の心の成長を保護者に伝えていく事が保育士の役目だと考える。

園総合評価

・今年度もコロナ対応に追われた1年だったが、保育では「子ども主体の保育」を模索や迷走しながらも意識した。前年度以上に子どもの姿から「やりたいあそび」「興味あるもの」「発見」「子どもの気付き」「子どものつぶやき」に保育士が着目し、環境設定や声掛けをしてつながりのある遊びを意識した。

つながりのある遊びに発展していく大切さや難しさを感じながらも、日々のあそびから行事を捉える保育を意識し、「運動の会」や「モコの会」では子ども達が自分達で作上げたという達成感や一体感が生まれた。そこまでのこころの葛藤や作り上げていく過程が子どもの成長に欠かせない物である事を保育士は改めて実感した。

・保護者アンケートで「成長を感じたエピソード」を沢山ご記入いただき、保護者の方と子どもの成長を共有できた事は嬉しく思うが、保護者への情報発信を日々の保育に絡めていき、今以上に保護者の方を巻き込みながらの展開ができるようにしていく事が課題であると感じた。

・時代の変化に伴って保育園に求められている役割は近年特に大きくなっている現状にある為、コロナが落ち着いたら地域とのつながりを更に意識して交流の場などを作っていきたい。また、保護者の方と子どもの悩みや成長について気軽に相談できる場所としての保育園である為に、子どもの成長を保育園と保護者で共感、共有して信頼関係を作っていきたい。